

見沼溜并新田開發
見沼代用水路開鑿

奉行贈從五位井澤彌惣兵衛爲永氏の事績

見沼代用水路普通水利組合

722
12/4/9

序

贈從五位井澤彌惣兵衛爲永氏見沼の干拓と代用水路の開鑿を規畫經營し能く其の職を盡し空前の大業を遂行せらる功勞偉大にして後代に至る迄尊信を受くこと頗る深厚なるものあり且如何なる大旱魃に遭遇するも旱害を被ることなく黃稻豐穰の秋を見るを得たり之れ全く氏の偉績に依る所以にして本組合の今日あるは實に其の賜なり來年三月は氏物故せられてより二百年に相當するを以て組合會に諮り謝恩追福の法要を緣り深き南埼玉郡大山村大字柴山常福寺に於て營むことになりたれば氏の事績を編述して關係者に頒たむとす

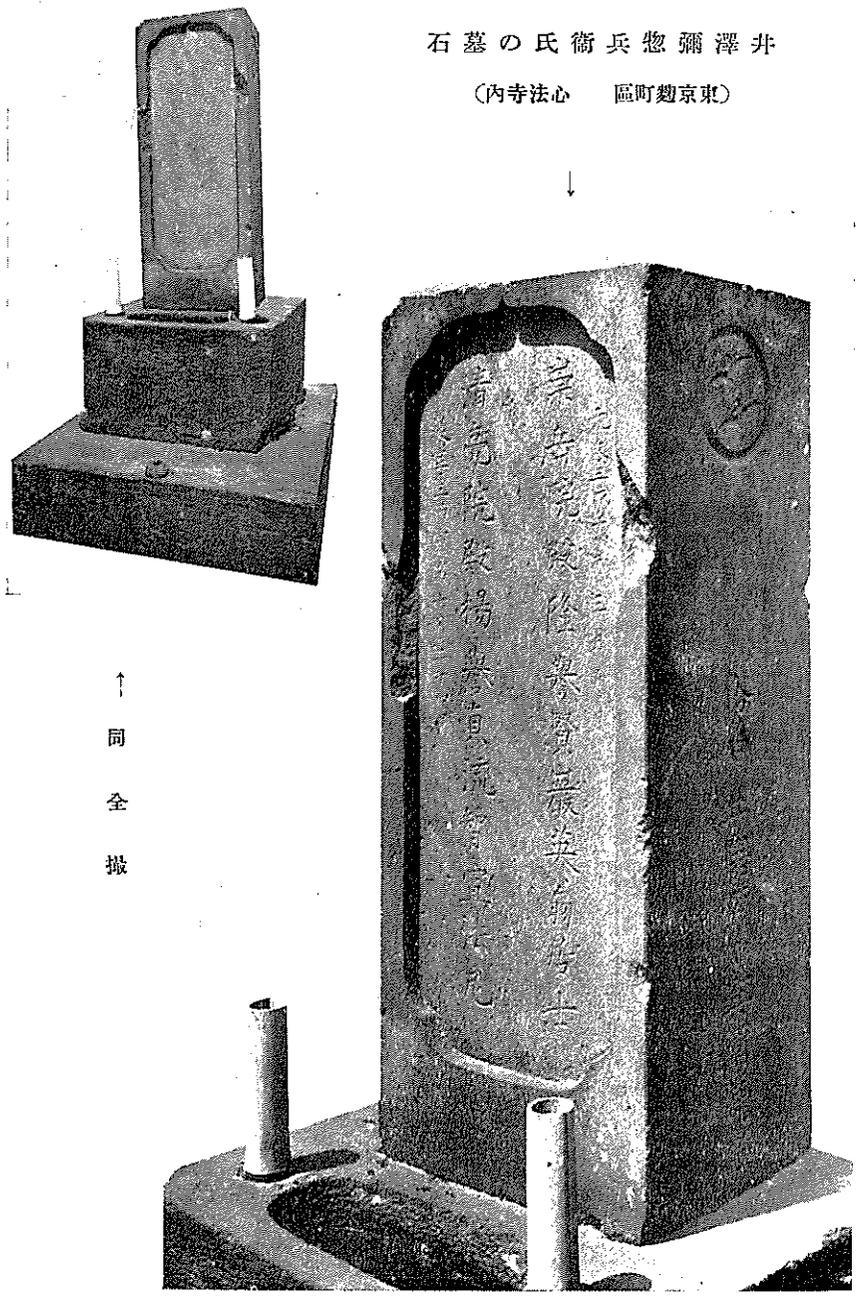
氏は全國到る處治水墾田の事績あり本書は其の概要を敘述せるに過ぎず然も勿くの間成り其の完璧を期するを得さりしは深く遺憾とする所なり而して見沼

の干拓と代用水路の開鑿に關する由來に付ては別冊見沼代用水の概要に記述す
幸ひに諒せられむことを

昭和十一年五月

見沼代用水路普通水利組合管理者 佐野文吾

石墓の氏衛兵惣彌澤井
(内寺法心 區町麴京東)



↑ 同 全 撮

立建の年四和明
 氏衛兵惣彌澤井
 碑石の福追恩謝

(山柴字大村山大都玉埼南)
 (内 寺 福 常)

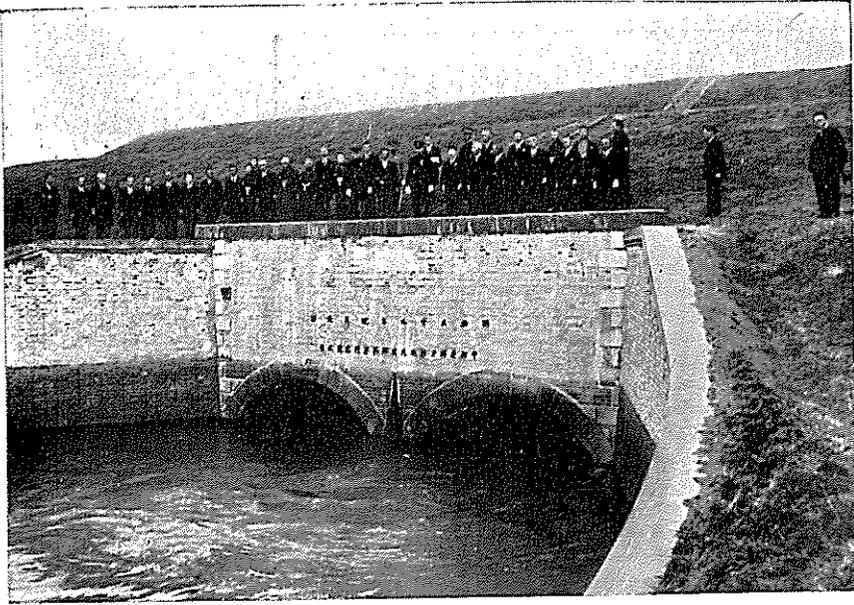


立建の年四十化文

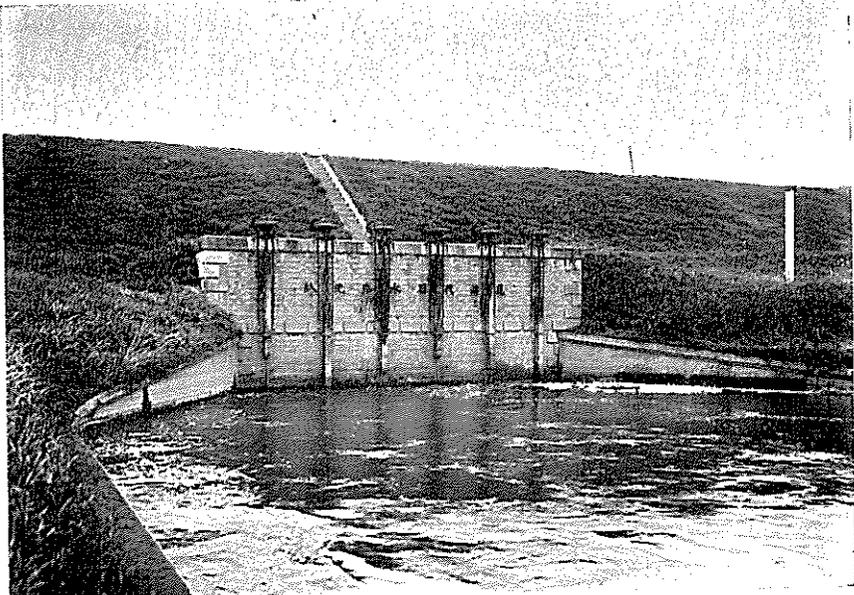
氏衛兵惣彌澤井
 碑石の仰信靈造

(柳片字大村柳片郡立足北)
 (内 寺 年 萬)

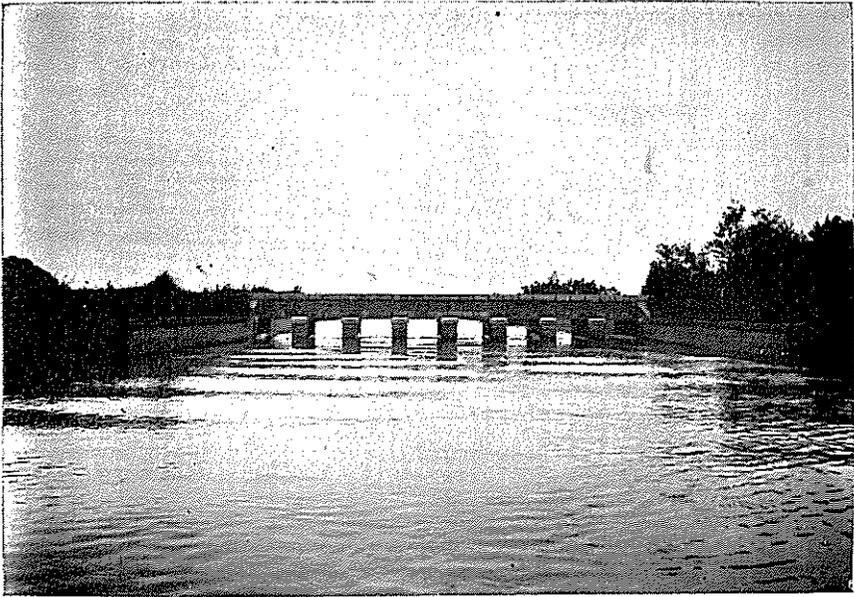




御使大寺侍從奉迎記念
 榮光ニ輝ク見沼代用水元壩樋管
 昭和九年十一月十五日



見沼代用水元壩樋管
 玉崎北縣玉崎郡加須村大字中條利根川右岸本堤ニ伏込
 築造五棟長八十間內法前部長二間中央高五尺三寸六分
 築造後部長六十間中央高九尺二寸五分
 保亨二十一年設元水造シリナモ明治三十三年五月九日現狀ニ改築



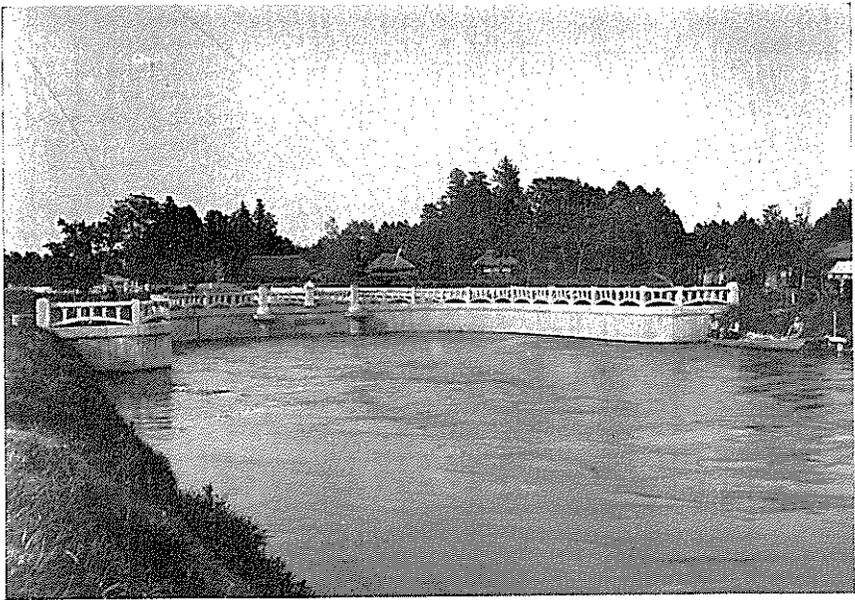
八間堰 梓

内地崎大上字大村山大郡玉埼南縣玉埼 置位
 分二寸七尺六十流水口八尺九高寸一尺五巾行水間八形川造石 造構
 築改ニ狀現月四年三正大ヲシリテ造木ノ設創年三十保亨



十間堰 梓

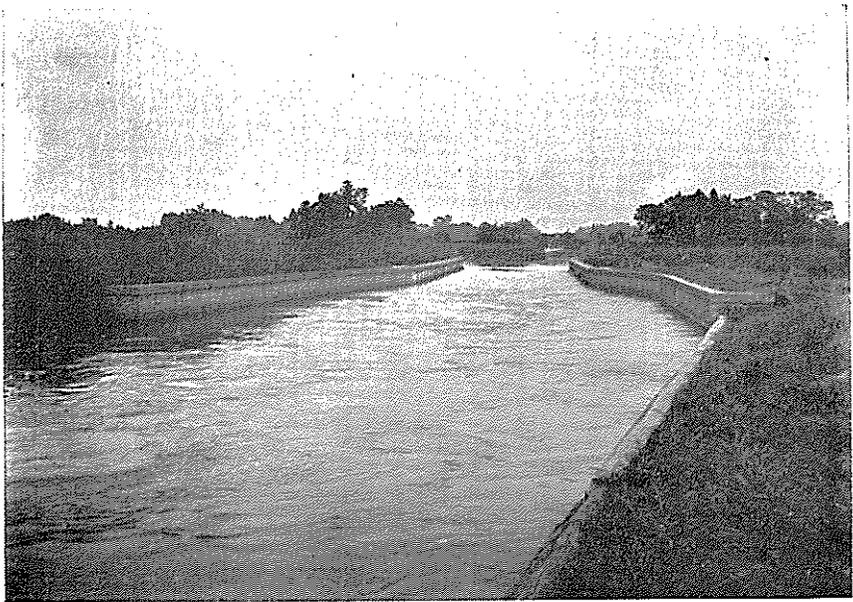
崎大上字大村山大郡玉埼南縣玉埼 置位
 ス口開ニ川星下口六十尺八高間六流水間六十形川造木 造構
 行施繕修大月三年七和昭ハ堰現ス替伏屢來爾メ改ニ造木ヲ堰草ノ來古年三十保亨



柴山伏越樋管

置位 柴山字大村山 大野郡玉南縣玉崎 會入野平上字大村野平 荒元川底伏越

鐵筋混凝土造 長八十三間八分九釐 高法內分九間八分九釐 斷尺三十 方一十四百一尺 設創ヲ管樋越伏ノ尺四高尺四十法內間六十二長ヒ用テ造木年三十保亨
圓造瓦棟年十二治明 ス爲卜個一テ併合年後設増ヲ尺三高尺二十橫年翌
築改ニ狀現テ於ニ縣玉崎メ爲ノ修改川荒元月四年四和昭ニ更築改ニ形



掛渡井

置位 南縣玉崎 田字大町田 北縣玉崎 會入 大町市原郡立足 井瓦字大町市原郡立足北

鐵板合縱造 長五十間 高法內間五十二 寸五尺六高 二分七寸四 設創年三十保亨
築改ニ狀現月四年十四治明ヲシリナ造木元設創年三十保亨

見沼溜井新田開發
見沼代用水路開鑿

奉行井澤彌惣兵衛爲永氏の事績

紀州溝口村の人なり夙に數理に精通し最も治水墾田の技に秀で甲州流（信玄）關東流（伊奈家）の外上方流の長所を採り紀州流を大成せる川普請の巧者にして高堤の築造、用惡水路の開鑿、制水施設の經營等頗る其の得意とする所にし
て明治の新式土木勃興する迄治水の大宗師と仰がれ今日猶其の遺法を存せり
享保元年吉宗出でて八代將軍となるに及び治水に巧なる彌惣兵衛氏を拔擢登用し新田開發の事を永掌せしめたり是に於てか伊奈半十郎忠次以來繼承されし關東に於ける治水墾田の事業は全然井澤氏の掌中に歸したり爾來開拓の業大に興り頓みに産米を増加したるを以て世に吉宗を中興の英主と稱し米將軍と稱へらるゝに至りたるは井澤氏の功大に與つて力ありと謂ふべきなり

彌惣兵衛氏初め紀州家に仕へしが吉宗將軍職を襲ぐや江戸に伴はれて勘定所に出仕す享保四年五曾根溜井に水量標を建設す同七年命ぜられて琵琶湖沿岸及山城、攝津、河内、和泉、播磨等の新田を檢地し且淀川、木津川の水利、目川の諸川を巡視し八年六月江戸に歸る同年七月祿二百俵を賜はる同年八月下總國相馬郡飯沼及同國結城郡吉田用水路を視察して開拓の計畫を樹て同年十一月命を奉じて再び西上し淀川堤防及播磨青野原の開拓を司り其の功竣りて九年三月歸府す享保十年飯沼の開拓を遂げ同年十一月勘定所吟味役格に昇進し三百俵加増せらる同十一年五曾根溜井に堰棹二箇所新設同十二年六月幕府勘定吟味役の分擔を定め新田開墾の事業は彌惣兵衛の永掌となる同年見沼を開拓し又江戸川筋金杉村附近を改修す同十三年見沼代用水路を完成せしめ次て栢間村の東方なる栢間沼（柴山枝郷の南方に當る御新田耕地）同年箕播磨守の上申に依

り河原井沼（三箇村、清久村の臺沼耕地）足立郡鴻沼（與野町、土合村）埼玉郡黒沼（慈恩寺村、内牧村に亘る耕地九人組新田）笠原沼（須賀村、百間村に亘る耕地）等の新田開發を行ふ同十四年見沼通船堀及閘門を新設して舟路を開き又埼玉兩郡一帯の排水路として中川を開鑿せり同年中甲信兩洲の河川工事を擔任し其の地に趣く同年十月勘定所吟味役に昇進す同十五年松伏溜井に堰棹二箇所伏込む翌十六年川俣井筋模様替東葛西上下の割、松伏村地内に葛西坂を伏込み本田用水路左右二間宛切擴げ二郷半領、東葛西領、松伏領三箇領の用水と爲す同年西國郡代を命ぜられ同二十年八月美濃郡代を兼ね元文二年九月郡代を免せられ十二月職を辭して寄合となる元文三年三月遂に病を以て卒す享年七十六法諡を崇岳院殿隆譽賢巖英翁居士と稱し江戸麴町心法寺に葬らる

井澤氏全國到る處幾多の施設を遂行せり殊に我埼玉縣に最も多くの事業を施行

す就中見沼の干拓と代用水路の開鑿は此種事業の最大なるものにして其の功績極めて偉大にして後代に至る迄尊信を受くること頗る深厚なるものあり

大正四年十一月畏くも

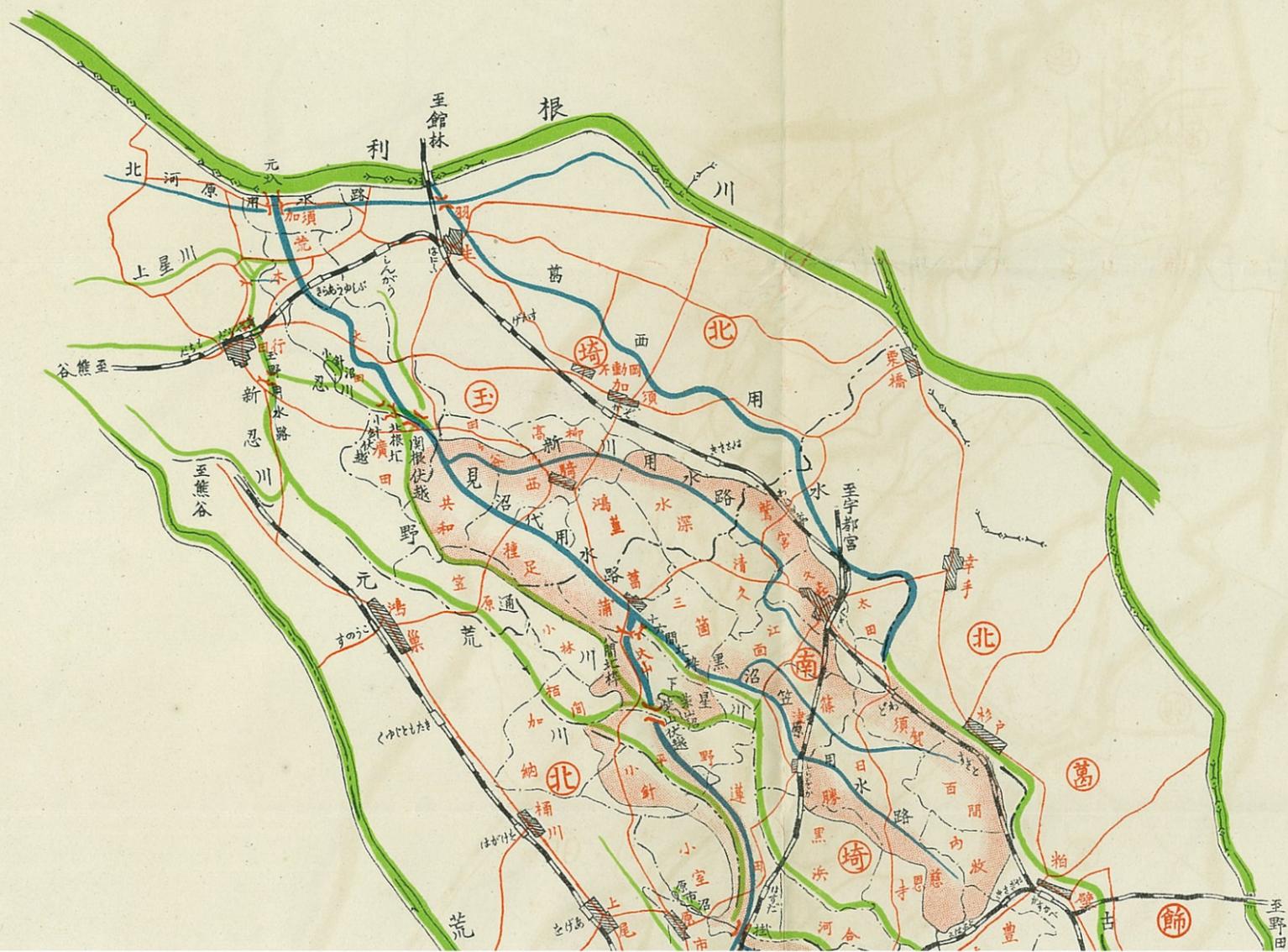
大正天皇 御即位の御大典に際り水利開墾等の功勞者として贈從五位の恩命を拜せられたり

南埼玉郡大山村大字柴山常福寺境内に立てる恩謝追福の石碑は歿後三十年を隔てたる明和四年に於て常福寺住職及柴山村民の建立せるものにして其の碑陰に刻める文字を一讀すれば後代に至る迄關係民の井澤氏遺徳に對する追慕の情如何に熱烈なりしかを察するに餘りあり亦北足立郡片柳村萬年寺境内にある井澤氏追福の石碑は大山村の石碑建立後三十六年を経たる文化十四年の建立にして井澤氏の歿後六十六年に相當せり當時片柳地方に於ても見沼用水開鑿の結果水

田の灌漑は勿論舟運開通の恩惠多大なりし爲沿岸の人民は其の利便を受け多くの船頭は其の職を得るにつけ益々其の遺徳を追慕するの情に堪へず遂に大山村の建碑に倣ひて之れを建立せり大山村の石碑建立の趣意は謝恩追福の爲なるも片柳村の石碑は井澤氏の遺靈に歸依し其の徳光を仰がば水難を免かれ五穀豐饒の御利益ありと信仰するまでに尊崇し其の結果當時の名主を始め村内の重立ち及船頭に依りて建立せられたり

見沼代用水路普通水利組合水路圖

縮尺二萬分一





例 凡										
										記號
町村界	郡市界	府縣界	市街地	組合區域	種管越掛界	堰	鐵道並鐵橋	道 路	河川及用水路	名稱